

第2章 基本構想

平成 24 年度(2012)～平成 33 年度(2021)

1

高浜市がこれから目指していく

生涯学習の方向性

～基本理念と基本目標～

【基本理念】



生涯を通じて学び合い、育みあうことによって個性や能力を伸ばし、夢と希望と感動に出会える「大家族」を目指します。

「まなび」は好奇心から始まる

今や、人生90年、100年時代とも言われる「長寿社会」。人生が長くなったということは、自分で人生を設計していく時代であると言えます。

人生は多毛作 一いきいきとした人生を送ることを考えた時、生まれてから一生を終えるまでの各段階において、また、家庭・学校・団体・地域・施設・職場など多種多様な場面において、「知りたい」「やってみたい」といった知的好奇心を満たす、あるいは、教養を豊かにし、自己実現につなげていくといった「まなび」を積み重ねていくことが大切となります。

一人ひとりが積み重ねた「まなび」をつなげ、行動する力に変えていく

そうした「まなび」は有形・無形の財産です。個人の中にとどめておくのではなく、学び合ったことを様々な形で社会の中に還元していくことは、社会の発展に貢献するだけでなく、自分を表現する喜びや新しい自分の発見にもつながります。また、そのプロセスを通して、仲間づくりや絆づくりにもつながっていきます。

一人ひとりが自分を磨き、その成果を結び合い、行動する力に変えていくことが、人とまちの魅力を高めることとなり、「大家族たかはま」*の実現につながっていきます。

*「大家族たかはま」とは

第6次高浜市総合計画（計画期間：平成23年度～平成33年度）では、「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」を、高浜市の将来都市像（目指すまちの姿）として掲げています。

高浜市というまちは、行政だけでなく、住んでいる市民、高浜市をよりよいまちにしていこうと活動している団体、事業所やそこで働いている人、学校等で学んでいる人など、様々な人たちの営みによって成り立っています。

そこで、それら全てを1つの家族、すなわち「大家族」と見立て、「個々の力でできることは個々で行う」「地域のみんで力を合わせればできることは、その中で行う」「地域のみんで力を合わせてもできないことは、高浜市全体で行う」という考え方のもと、みんなで高浜市のことを考え、行動に移していくという「市民自治都市・高浜市」をみんなで創りあげていこう！という想いが込められています。

【基本目標】

(1) 「まなび」の芽を発芽させよう！

(2) 「まなび」の芽を育てるために、みんなで水や養分を与え合おう！

(3) 「まなび」の根っこをしっかりと大地へ下ろし、
芽を大樹のように育てていこう！



「まなび」の根っこは「子どもたち」

また、高浜市というまち全体をひとつの大地として見立てた場合、「まなび」の根っこは、「子どもたち」です。「まなび」はその人の生き方に大きな影響を与えます。子どもの頃に体験したことや記憶は、ずっと生き続けます。未来へ向かって子どもたちが羽ばたくためには、「まなび」の意欲につながる感動や体験にたくさん出逢うことが大切。子どもたちが夢と希望を持って青少年から社会人へと成長していく中で、大人も高浜市自体も大樹のように広がりを持って一緒に成長していくことが、「私たちの愛するまち・高浜市」を次の時代へつなげていくことになります。

こうした、子どもたちを社会の担い手として成長させていく地域の力を「地育力」（地域教育力）と捉え、「地育力」を大きく育み、生態系のような循環型で持続可能な生涯学習を目指していきます。

高浜市を知り、愛着・誇りを高めていく

さらに、高浜市には、瓦産業や鬼瓦製作技術、吉浜細工人形、菊人形をはじめ、先人たちが長い年月を重ねて培い、伝承してきた、国内外に誇る個性豊かな地域資源がたくさんあります。これらは高浜市民の共有財産であり、次の世代へ継承していくことは、今を生きる私たちの使命です。

そのためには、まずは、高浜市というまちを知ることから始まります。歴史・伝統・文化・産業・自然などの魅力を掘り起こし、発信・活用していくなど、高浜市で学び、高浜市で活動していくことによって、高浜市に対する愛着や誇りを高めていきます。

2 基本目標の達成に向けての考え方

(1) 「まなび」の芽を発芽させよう！



好奇心に灯をともしよう

「まなび」は、「知りたい」「やってみたい」といった好奇心から始まります。また、お腹の中にいる時から一生を終えるまで、生涯にわたって続くものでもあります。

だれでも・いつまでも、「もっと知りたい」「あれもやってみたい」と思えるような、「まなび」の好奇心や意欲を引き出す場や機会を、地域や学校、関係機関等と連携して創っていきます。

子どもはもともと、自ら伸びようとする芽を持っています。大人は子どもに対して、芽を伸ばそうとする光を与え、しっかりとした根に育てる責任があることから、大人が行動を起こし、変わっていくことが大切です。

- ★ 人生をいきいきと豊かにする趣味・教養といった「自己実現型のまなび」にとどまらず、自分の人生を設計する力やコミュニケーション能力などが身につくように、さらに、地域の課題発見・解決につながるような「まなび」に出会える場・機会を創っていくことが大切です。

環境、防犯、防災、福祉、消費生活、情報、社会経済、スポーツ、健康づくり、食育、産業、伝統文化、地域活性化、多文化共生など、たくさんあるわね



- ★ 子どもや青少年を未来に羽ばたく人材として育てていくために、地域の歴史・文化・自然・環境等に触れる機会や、ものづくりをはじめ「本物を見る・知る・聞く」といった体験、ボランティア活動や職業体験活動への参加・参画など、学ぶ意欲につながる感動や成功体験にたくさん出逢える機会を創っていくことが大切です。

そのためには家庭や幼稚園・保育園、学校だけではなく、地域の大人たちや生涯学習施設等がネットワークを張り巡らせ、お互いに関わり合いながら、子どもたち一人ひとりの個性ある未知の可能性を引き出していくような取り組みが重要です。

活動の達成感・満足感などの「成功体験」の積み重ねが、「もっと知りたい」、「もっとやってみたい」につながっていくよね

青少年に地域からミッション(使命)を与えることによって、地域課題を考える機会を創るなど、地域に学ぶプロセスを体感させることも必要だね



- ★ 10年後(平成33年(2011))には、高浜市でも「超高齢社会」に突入することが見込まれます。「第2の人生」を楽しく、生きがいを持って謳歌できるように、また、培ってきた豊かな経験や知識を、地域のまちづくりや子どもの育成に役立てることができるようきっかけづくりが必要です。

生涯総労働時間と定年後の自由時間は、それぞれ約10万時間とされているんですって

子どもや孫たちのために、私たちも何かやってみようかな？



「まなび」の芽を発芽させよう！ たとえば・・・

絵本作家になる夢が芽生えるかも・・・



プロスポーツ選手になりたい！と思う

指導者としてスポーツの楽しさを広めたい



(2)「まなび」の芽を育てるために、みんなで水や養分を与え合おう！



人と人 人と「まなび」を結び合おう！

「まなび」を豊かなものにしていくためには、「まなび」で得たことを個人の中にとどめおくのではなく、誰かへ教えたり、社会の中に活かしていくことが大切です。個人個人、あるいは各団体等がばらばらに活動するのではなく、交流したり、緩やかにつながり合うことができるよう、「まなび」に関する情報を受発信したり、「学びたい人（団体）」と「教えたい人（団体）」をつなげるための支援を行っていきます。

また、知識・技能・経験等を持った人材を掘り起こし、「まなび」の担い手として活躍できる場を創出していきます。そうした積み重ねが、新たな「まなび」の出逢いにも、つながっていきます。

学校は、子どもだけでなく、誰もが通いやすい身近な場所にある地域社会の共有財産です。学校を拠点として、家庭・学校・地域がつながりあい、子どもと大人がともに学び、異世代交流を深めていくことによって、お互いに顔の見える関係や、人と人とのつながりが育まれ、地域活力の基盤となっていきます。

- ★ 学校・学区を拠点・基盤に、子どもたちが大人とふれあい、共通の体験をする機会や、住んでいる地域の行事に関わる機会を創っていくなど、子どもたちだけでなく、大人たちも参加・参画しやすい環境を整え、地域に根ざした「まなび」を育てていくことが大切です。
- ★ 人と人が活発に交流しあうことで、連帯感が育まれるとともに、新たな「まなび」との出逢いも生まれてきます。「まなび」の成果を個人の中にとどめず、他の人に教えたり、地域のまちづくりに活かしていくことができるような場・仕組みづくりを進めていくことが重要です。
- ★ みんなで多様な「まなび」の花を咲かせていくためには、大学等の教育機関や学識経験者といった、専門知識・技能を有する人・団体との連携・協力も必要です。



家庭を「第1の居場所」、学校や職場を「第2の居場所」とすると、それに続く「第3の居場所」をどう見つけていくかが課題かな

楽しいことや、好奇心を満たすことのほかに、人や社会のために役立っているといった有用感や、役割意識を見出すことが大切だね



- ★ 「まなび」の成果や、知識・技能・経験等を活かせるよう、人材を掘り起こし、活躍の場をつくるほか、人材や活動をコーディネートし、活力あるまちづくりにつなげていくことが重要であることから、地域や市民団体、生涯学習施設、関係機関、企業、行政などが互いに連携・協働する「たかはま生涯学習プロデュース・ネット」*を構築していきます。

* 「たかはま生涯学習プロデュース・ネット」とは

「まなび」の成果を個人の中にとどめておくのではなく、誰かに教えたり、社会の中で活かすことができるように、人と人、人と「まなび」、人と資源等をヨコへつなぐことによって、地育力（地域教育力）を豊かにしていこうという仕組み・考え方。

鍵となるのは「地域コーディネーター」（＝生涯学習プロデューサー）の存在。「地域コーディネーター」とは、「まなび」に関する活動を企画立案し、活動内容の調整などを行っていく人材・団体・機関。市民、学校、地域、ボランティアグループ、生涯学習施設（例：公民館、図書館、美術館）、企業、学識経験者、高浜市出身・ゆかりの方々などに参画を呼びかけ、ネットワークを張り巡らせながら、「まなび」に対する一人ひとりの好奇心を呼び起こしたり、「もっと学びたい」「もっと活動したい」と思っている人に対して「まなび」の幅を広げることができるように、また「まなび」の深さを掘り下げていくことができるように努めていくことが求められます。

また、「まなび」活動を行う人たち自身（＝生涯学習プレイヤー）も、もっと「まなび」の輪が広がっていくように、人・まなび・資源をつなぎあう触媒としての作用が期待されます。

さらに、将来、「地域コーディネーター」の役割を担うことができるような人材等の育成も大切な観点であることから、「地域の達人探し」などの人材の掘り起こしや活躍の場づくりなどを並行して進めていくことも大切です。

「たかはま生涯学習プロデュース・ネット」が、「まなび」と「行動」が循環しあう生涯学習の土台となることによって、住んでいる人同士の絆づくり、地域の個性や創意工夫を活かしたまちづくり、ひいては、コミュニティビジネスなどの創出など、まちの元気づくりにつながっていくことが期待されます。



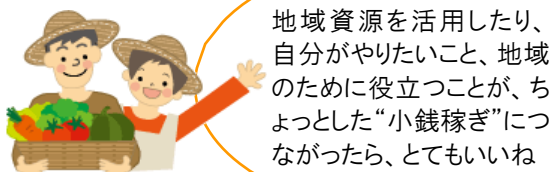
(3) 「まなび」の根っこをしっかりと大地へ下ろし、
芽を大樹のように育てていこう！



「まなび」の輪をまち全体へ広げていこう！

高浜市を未来へつないでいくためには、まずは、今を生きる私たちが住んでいるまちの
ことを知ることから始まります。高浜市は、「三州瓦」に代表される、江戸時代から続
く窯業のまちとして、近年では輸送機器関連産業などが盛んな「モノづくりのまち」と
して発展してきました。また、「吉浜細工人形」（愛知県無形文化財）、「えんちょこ獅子」
（愛知県無形民俗文化財）、「射放弓」や「おまんまつり」（高浜市無形民俗文化財）を
はじめとする個性豊かな地域資源が数多くあります。こうした資源や魅力の掘り起こ
し・発信・活用によって、愛着や誇りを高めながら後継者を育成していく「まなび」と
「行動」の循環を支援していきます。

また、まちへの愛着や誇りは、まちづくりに関わることから芽生えます。一人ひと
りが積み重ねてきた「まなび」の成果を結集させ、まちを切り拓いていくパワーに変え
ていくため、市民・地域・学校・関係機関・行政等、「まなび」に関わる者同士のネット
ワーク構築を進めるとともに、地域の個性や創意工夫を活かした多様なまちづくりの実
践を支援するなど、「まなび」を支える仕組み・体制を整備していきます。



地域資源を活用したり、
自分がやりたいこと、地域
のために役立つことが、ち
よつとした“小銭稼ぎ”につ
ながったら、とてもいいね

高浜市の個性や魅力はたくさ
んあるはず。掘り起こしや発信
をして「高浜市が大好き」「高
浜市に住んでよかった」と思う
人が増えていくといいな



- ★ 歴史や文化、伝統、産業など、地域の良さを学び合い、次の世代へ継承し、愛着と誇りを高めていくために、「地域学」*（高浜学）を立ち上げ、地域や関係団体等と連携・協力しながら取り組んでいくことが必要です。

*「地域学」とは

自分たちの住む地域の文化や歴史、自然、産業などを再発見し、その魅力や強みを発掘・活用していく取り組み。全国各地では、例えば、「ご当地検定」「まちごとまるごと博物館」など、多彩な取り組みが広がりつつあります。

- ★ 子どもからお年寄りまで、地域に暮らす全ての人々がお互いに協力しながら、それぞれの役割を積極的に果たすことにより、ともに生き、ともに支え合うといった、誰もが安心して楽しく暮らすことができ、地域の特性を活かしたまちづくりを目指していくことが大切です。
- ★ 「まなび」の成果を市政運営に活かすことができるよう、参画機会の創出や協働事業を拡充していくことが重要です。
- ★ 「まなび」はよりよい豊かな人生を送るために、誰もが持っている権利です。市民の「学びたい」「活動したい」という想いを応援するため、「まなび」を支える仕組み・体制づくりを進めていきます。

学べば、学ぶほど、
自分が何も知らなかったことに気づく、
気づけば気づくほど
また学びたくなる。

(アルベルト・アインシュタイン)

